



題字・天野貞祐

第 87 号

平成 28 年 12 月 10 日発行

発行所 〒 112-0014 東京都文京区関口3-8-1

TEL / FAX 03 (3946) 6352 (直通)

獨 協 同 窓 会 発行責任者 浅 野 一

主な内容

歓迎！新入会員からのメッセージ	(1)
平成28年度 通常総会・懇親会 報告	(3)
総会特別講演会	平成 6 年卒 高尾 洋之 (4)
寄付金納入者一覧	(4)
朗報！栞田義一氏、ドイツ政府より叙勲	昭和43年卒 浦野 晴美 (5)
硬式野球部、選抜4回戦進出！応援記	平成元年卒 木庭 大輔 (5)
獨協祭参加報告	広報委員 沖山 秀司 (6)
獨協ぶらり旅	広報委員 谷田貝茂雄 (9)
ヨーロッパトラム巡り第2回 Bad Schandau	会計委員 谷口 有三 (11)
感謝をこめて、成田先生を偲ぶ	昭和47年卒 中村 一哉 (11)
クラス会だより	(12)
平成29年クラス会開催予定のお知らせ	(16)
私の近況	(17)
同窓生の新刊紹介	(19)
<お知らせ> 協賛有料スペース新設について	(20)
物故者名簿	(20)
編集後記	(20)

<http://www.dokkyo-mejiro.com>

獨協同窓会

検索

歓迎！

新入会員からのメッセージ

同窓会は、今年 194 名の新しい会員を迎えました。その中から、森 弘帆さん、難波知希さんのお二人と今年母校の教育実習生として舞い戻った平成 24 年卒の和野遼平さんからの同窓会へのフレッシュなメッセージを紹介します。

平成28年卒 森 弘 帆

今年 6 月に行われました獨協同窓会懇親会に初参加させていただきました北里大学医学部 1 年森弘帆と申します。今年度の卒業生全員を新同窓生としてご招待いただきまして誠にありがとうございました。

つい数ヶ月前まで 6 年間通った校舎をととても懐かしく眺めながら椿山荘の懇親会会場に向かいました。そこでお世話になりました先生方、一緒に学び、遊んだ同級生、社会で活躍されている諸先輩にお会いすることができ、短い時間でしたがとても素晴らしい、思い出に残る懇親会となりました。これからも積極的に参加させていただき、また私自身も立派な同窓生になれるよう努力いたします。同窓会

の関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

今年の 3 月に獨協高校を卒業してから早くも半年が経過しようとしています。近頃は部活動に明け暮れた獨協生活を懐かしく思い出します。昨年の 11 月、私は指定校推薦で北里大学医学部に合格しました。この



新入会員の皆さんと 進路指導部長 齋藤有子先生(右端)

度は私が同大学に合格するまでの経緯、大学生活、将来の夢、現役獨協生へのメッセージについて記させていただきます。

中学から高校に上がる時点で上位の成績が取れており、高校1年次から推薦入試を意識していました。高校野球部に所属し練習がほぼ毎日あったため、中学時より時間的余裕はなくなりましたが、短い時間に集中して勉強していました。学業、部活動共に結果が出ない日々もありましたが、友人や学校の先生方に励まされ、目標を見失わずに努力し続けることができました。高校3年の夏の最後の大会で負けるまでは学校の勉強が中心でしたが、敗戦後、本格的に予備校に通い始めました。夏休みの中頃まで獨協医科大学の推薦入試を考えていましたが、北里大学にも指定校枠があったため8月にオープンキャンパスに参加し、比較の実家に近いことや、生命科学系総合大学でありチーム医療を積極的に学ぶことができる点に魅力を感じ、志望校を変更しました。9月以降は一般入試を視野に入れた学習をしつつ、推薦対象として医系小論文、集団面接・討論の練習も学校と予備校で行いました。11月に合格してからは、クラスメイトの期末試験のサポートをし、1月以降は高校野球部を手伝い、大学から与えられた生物と英語の課題に取り組みしました。

大学に入学してから1ヶ月程で大学生活に慣れると、水泳部と準硬式野球部に所属し、部活動の無い日は友達と過ごしました。前期試験の勉強は1ヶ月前から始めたのですが、結果は芳しくなく、日々欠かさず勉強しないと医学部にはついて行けないということを痛感しました。将来の夢について、具体的に何科の医師になるかは決めていませんが、北里大学のオープンキャンパスでお会いした獨協高校出身で現在北里大学病院救命救急・災害医療センター長の浅利靖教授のように、ぎりぎりの状態で苦しんでいる人を救える医師を目指していきたいです。9月から後期に入ります。毎日努力していた獨協生時代が今の僕の心の支えになっています。現役獨協生の皆さんも悔いの無い獨協生活を送ってください。将来の自信につながるはずです。

最後に、今後の獨協同窓会の益々のご発展を祈念いたします。

平成28年卒 難波知希

私は平成28年3月に本校を卒業し、慶應義塾大学文学部に進学しました。現在、私は本校で培った知を基に、大学でも勉学に励んでいます。私は元々日本史に興味があるということもあり、本校でも歴史研究部に所属していましたが、大学でも歴史サークルに所属しました。大学生活となりますと、高校時代と比べて生活に余裕が出来ますので、様々なことが学べるという利点があります。振り返ってみますと、高校時代は慌ただしい時間を過ごしていました。高校2年生頃か

らは受験を視野に入れて予備校に通うなどと、だんだんと自由な時間は削られていきました。そんな中でも本校に通っていたおかげで様々な行事に参加することが出来、楽しく過ごせていたかなと思っています。卒業した今では在学していた時間全てが良い思い出です。文化祭や修学旅行などの行事はもちろん、日々の授業や休み時間なども今となっては過ごすことの出来ないかけがえのない時間でした。卒業してみないと分からないことも多いですね。大学へ入ると、いきなり世界が広がったような気がします。文字通り、行動範囲が広がったということもありますが、精神的にも先輩に成人された方がいたり、何やらすごそうな研究をされている方がいたり、大人の世界に入った気がします。

そのような新しい生活の中で、中高時代を振り返らせてくれるのが同窓会です。本年六月に椿山荘で催された同窓会の懇親会にも参加させていただきましたが、久々に同級生や先生方とお話することが出来て、一晩だけ在学時代に戻ったような気がしました。同窓会とは私にとってはそのような、一時だけ在学時代に戻してくれるような場だと考えています。新たな生活は順風満帆です。これからも日々精進していきたいと考えていますが、時折は同窓会でのんびりと、というの也不错かもしれません。

最後となりますが、このような場に寄稿させていただくことに御礼申し上げます。また、今後の同窓会の発展を心よりお祈り申し上げます。

平成24年卒 和野遼平

私は2012年に獨協高等学校を卒業し、その後東京造形大学に進学し、現在彫刻を専攻領域として勉学に励んでおります。この度、教職課程の教育実習のため母校である獨協中学・高等学校に実習生として舞い戻り、大変貴重な体験をさせて頂きました。

私は現在、大学4年生なので毎日卒業制作に全身全霊をもって取り組んでいます。主に「石彫」といわれる、石を彫って作品を制作するというようなことをしていて常に石材の粉塵や欠片にまみれて過ごしています。作業場が基本的に外なので、最近季節に似合わず湿っぽい日が続いており鬱々とした毎日です。そのような生活をしていたなか、4年ぶりに中学校・高等学校という場に、しかも教育実習生という立場で再び入りました。

いざ実習が始まると、お世話になった先生方にあたかく受け入れていただき、思っていたほど学校の雰囲気も変わっておらずとても懐かしく思えました。私は美術科の教員として実習させてもらい、ほぼ全学年の授業を見学し、中学1年生の授業を受け持ちました。美術科の先生方もお変わりなく、とてもよく面倒を見ていただきました。

ホームルームは中学1年1組を担当しました。1組の担任の先生は、私が在学中剣道部でお世話になった山田先生で実習中も大変お世話になりました。1組の生徒たちはとても元気がよく、23歳の私ですら老いを感じるほどでした。実習中、体育祭にも参加させていただき、生徒たちの頑張る姿を見て感動してしまいました。事あるごとに在学中の思い出がつい昨日のことのよう思い出され、大変懐かしい気持ちになりました。

私は在学中、成績がお世辞にも良いとは言えず落ち

こばれでした。そんな中、美術の授業ではとても楽しく、また評価も貰えていたのでこの道に進もうと決意し、今に至ります。私は今後、大学院への進学を考えています。

今回、獨協で教育実習を行わせていただくことができてたいへん良かったと思っております。サポートしていただいた先生方にこの場を借りて感謝したいと思います。ありがとうございました。

平成28年度 通常総会・懇親会 報告

通常総会

平成28年6月18日獨協中学・高校小講堂にて開催された。

総会に先立ち昨年度から始まった同窓生、生徒を対象とした講演会（後述）が開催され、高尾洋之先生に「増加する脳卒中患者、最新脳卒中治療と未来」というテーマで講演していただき、大変好評であった。来年度以降も総会前の講演会として定着させていく予定である。

続いて平成27年度にクラブ活動で活躍した生徒3名が紹介①され、同窓会賞としてそれぞれギフト券が贈呈された。さらにご来賓の渡辺校長よりご挨拶をいただき、終了後例年通り図書費として20万円が贈呈された。

今年度ご逝去された会員に黙祷が捧げられた後、総会の開会が宣言された。

浅野会長より開会の挨拶があり、会長就任後5年目を迎え、会務遂行にあたり会員のご理解、ご協力に対し感謝を述べられた。また、常任幹事、幹事を見直して、より実働できる役員を選出し、同窓会をさらに盛り上げていきたいと挨拶。

会務報告事項に引き続き協議事項が報告され②、平成27年度事業報告及び収支決算、平成28年度事業計画案及び収支予算案について協議が行われ、いずれも異議なく承認された。

懇親会

総会後の懇親会が例年通り椿山荘で、18時30分過ぎから行われ、今年卒業の新入会員や先生方のご参加を含め約130名が参集。冒頭、浅野会長から、総会へのご出席の御礼と関係者への労いの言葉があり、宮田和夫顧問（昭和24年卒）の挨拶と乾杯のご発声で④和やかにスタート。ご来賓の獨協中・高等学校校長 渡辺和雄先生から③獨協教育の現状や進学状況についてのスピーチを頂いた。歓談が続く中、昨年秋の叙勲で瑞宝中綬章を受けた林 謙治氏（昭和39年卒、独協通信86号で紹介）の挨拶と後輩で化学部OBの皆さんとステージ上で共にエール交換⑤。その後、新入会員26名と進路指導部長齋藤有子先生が（1ページ写真参照）、ユーモア溢れるつぶやきを展開し、会場を沸かせてくれました。また、昨年に引き続き今回も女性パフォーマーが登場。上述の林氏ご紹介の松田陽子さん⑥は、シンガーソングライターの傍ら、国連UNHCR協会の広報委員として世界の難民支援や国内では児童養護施設への寄付活動、子宮頸がん予防啓発活動に携わっている。曲目は「アナと雪の女王」からの「Let it go」で歌唱力の素晴らしさで盛り上がりました。一方で、反省すべきは、やはり会員の参加が減少していること。今後、視点を変えて、あり方や運営の方法など対策が求められる。「♪緑は深し〜♪」で閉会。



総会特別講演会

増加する脳卒中患者

～最新脳卒中治療と未来～

東京慈恵医科大学脳神経外科准教授
先端医療情報技術研究講座准教授

医師 高尾 洋之（平成6年卒）

昨年度から始まった総会前の特別講演会は、今年度東京慈恵医科大学脳神経外科准教授の高尾洋之先生をお迎えし、「増加する脳卒中患者～最新脳卒中治療と未来～」というテーマで講演して頂いた。

日本は2025年には3人に1人が65歳以上という高齢化社会となり、脳卒中患者も増加することが確実であり、その対策が今後の課題である。近年の脳疾患に対する医療の進歩は目覚ましく、脳の血管の中に血の塊が詰まってしまう脳血栓では薬で溶かすだけでなくカテーテルで血栓を引き抜くなど酔うような手段で治療が行われている。

脳卒中は早期発見、早期治療が原則であり、治療までの時間が救命率や麻痺の有無（重症度）に大きく関わってくる。そこでスマートフォンなどのIT機器を使って患者の輸送や医師の判断を迅速にし、治療までに時間を短縮する取り組みが行われているが、高尾先生はその第一人者としてご活躍されている。

高尾先生のわかりやすく興味深い内容の講演と、総会に参加している会員からのたくさんの質問もあり、大変有意義な講演会であった。

高尾先生の著作紹介

「スマホで始まる未来の医療」（日経BP社）定価2,500円

ここ数年でめざましい進歩をとげている情報通信技術



講演中の高尾先生

（ICT）を医療に積極的に取り込み「通信の力で、一人でも多くの命を救う」（実用例：救急・救命補助アプリ「My SOS」）ことを目的として高尾先生が中心となり東京慈恵会医科大学病院内で研究・開発・実証されている「先端医療情報技術」とその実用例の様々な紹介である。健康・医療・介護の分野での最新のICT医療やその未来におよぶ多くのテーマをまとめたもので、医療従事者にとっての教科書的な位置付けとなる。

救急・救命補助アプリケーション「My SOS」

2016年、総務省情報通信白書にも掲載された「My SOS」というソフトをご紹介します。獨協OBである高尾洋之先生（平成6年卒・東京慈恵会医科大学卒業）が開発者として関わられたソフトです。沢山の獨協OBの先生方にも広がっています。興味のある方は、是非インストールして、ひとつでも多くの命を救うプロジェクトに参加しましょう。

寄付金納入者一覧（「86号」以降）

（敬称略）

土屋 雅和（昭和18）	沢松 辺島 瀨 吉（昭和34）	真砂 功（昭和47）	林 毅（昭和56）
竹内 正信（昭和18）	松田 島 正 浩（昭和35）	木孝 彦（昭和47）	吉松 彦（昭和59）
佐藤 行允（昭和19）	木田 坂 宣 男（昭和36）	柳誠 幸（昭和47）	松澄 泰（昭和61）
青野 保勘（昭和20）	五保 直 孝（昭和37）	嶋谷 介（昭和47）	栄重 雅（昭和62）
鈴井 勘也（昭和20）	柳保 直 忠（昭和38）	井幸 幸（昭和47）	三益 久（昭和63）
神山 一郎（昭和20）	林久 謙 治（昭和39）	々々 志（昭和47）	白木 健（平成1）
大場 莊介（昭和23）	久保 和 博（昭和41）	安大 勉（昭和47）	玉森 道 寧（平成4）
中海 眞治（昭和25）	佐野 俊 一（昭和41）	秋島 康 成（昭和48）	青森 翔 裕（平成7）
本田 光芳（昭和25）	浅引 間 規 夫（昭和42）	林元 雅 道（昭和48）	近藤 圭 太（平成18）
小林 重穂（昭和26）	宮崎 輝 雄（昭和42）	茂澤 克 己（昭和49）	高石 謙（平成24）
小田 英夫（昭和26）	大越 克 巳（昭和43）	木入 宗 孝（昭和50）	岩田 翔 也（平成28）
太田 孝一郎（昭和27）	千橋 葉 実（昭和45）	鈴立 敏 彦（昭和51）	内海 直 人（平成28）
小滝 敏昌（昭和29）	風武 井 龍 二（昭和45）	市村 彰 弘（昭和52）	高野 康 洋（平成28）
桑嶋 陽一（昭和29）	武石 川 雅 史（昭和46）	小倉 彰 英（昭和53）	ウィルコックスアレクサンダー寛（平成28）
清水 洌（昭和31）	石木 原 英 二（昭和46）	清水 裕 次（昭和53）	森 弘 帆（平成28）
池田 彰男（昭和31）	木原 正 義（昭和47）	菅 正 剛（昭和53）	
鈴木 武夫（昭和32）	真田 弘 毅（昭和47）	土屋 寛 芳（昭和55）	
中山 政美（昭和34）	大石 弘 章（昭和47）		

ご協力ありがとうございました。今後とも会費納入および財務拡充のご寄付をよろしくお願い申し上げます。

朗報！ 枡田義一氏(昭和43年卒)

ドイツ政府連邦共和国「功勞勲章功勞十字小綬章」受章

浦野 晴美(昭和43年卒)

今年7月、高校時代の親友 枡田義一君より朗報が届いた。日独の長年の優れた交流活動に対して、ドイツ政府から『功勞勲章功勞十字小綬章』をいただいたという知らせとそれを知らせる新聞報道のコピー、授賞伝達式(2016年6月30日)の写真である。

枡田君は渋谷区広尾に生を受け、昭和40年に獨協高校に入学する。高校からのドイツ語クラスであり(2組)、早い時期からクラス委員も務めていた。優等生といってもがかり勉強タイプではなく、ラグビー部でも活躍した文武両道の健男児であった。獨協時代はクラスのリーダーで、文化祭でも在学中に2回刊行した『45人兄弟』の編集委員でも中心であった。ちなみに『45人兄弟』の2号である卒業記念誌には当時の天野貞祐校長も『わが心の風土』という一文を御寄稿されている。中でも彼を一番リーダーとして感心させられたのが、修学旅行での出来事である。修学旅行を前にしたある日、枡田君から頼みがあると言われた。クラスのいじめられっ子であるN君が修学旅行に行くのを心配している。そこでいたずらされそうな夜に横で一緒に寝てやってくれというのだ。そ

の高所からみた采配でいじめっ子もいじめられっ子にもたのしい思い出だけが残る修学旅行となった。なかなかまねのできる配慮ではないと脱帽したものだ。

氏はその後、横浜市大に進みその後はドイツ文学一筋に小樽商大には教授として赴任し、80年には神戸大学に着任した。新聞によれば、ドイツ語学やEU外国語教育政策などの研究の傍ら、ドイツ語圏の大学との交流にも尽力。2015年の退官後には神戸日独協会会長に就いている。この度の受勲は彼のたゆまぬ努力の結果ではあるが、ドイツとの関係深い獨協の一員としても誇らしいことでありともに喜びたい。



枡田義一氏(右)



硬式野球部 東京都選抜予選第4回戦進出！ 応援記

平成元年卒 木庭大輔

「獨協、4回戦進出！」高校在学中から、高校野球予選と言えば、いつも初戦もしくは2回戦負け、そして会場も駒沢グラウンド等であった為に、特に意識した事がなかった。それが、4回戦進出で会場も神宮球場と聞けば、OBとはいえ自然と鼓動が高まるのを感じたのと同時に、予定していた用事を先伸ばしにしている自分がいた。

前日から気分良く飲み過ぎてしまい、2日酔い気味で球場へ。正面掲示板に、「獨協 vs 日本ウェルネス」の文字が。これだけで自然と涙が溢れてきてしまった。天気は最高の野球日和。

一塁側応援席に着くと、在校生、ブラスバンド、父兄やOB合わせて150名位が来ていた。とにもかくにも、応援慣れしていない感じが丸出し。しかし、アットホームな感じで真剣に応援している様子が良く分かり雰囲気良し。ミスター獨協、谷田貝先輩も到着。恒例のI LOVE DOKKYOステッカーを大量に自己負担で持参頂いた。「木庭、これ配りたいんだけど、みんな使ってくれるかなあ?」「当たり前じゃないですか! 任し

て下さい！」高校当時、神宮球場でビール売りのバイトをしていた自分にとっては慣れたもの。ステッカーを両手で持ち、「獨協ステッカーいりませんか? みんなで貼って応援しましょう! もちろん無料です!」と声を張り上げたところ、みんな手を上げてくれるので、あっという間に配布完了!

試合が、始まり3回に獨協が2点先制! 点が入ると肩を組み、校歌を皆で歌うのだが、ここでまたしても涙!! 神宮球場で我が母校の校歌を唄えるとは。白熱の試合は5回でなんと4対4の同点。応援席のボルテージも最高潮!! 皆が1つになり、声を枯らして、日焼けも気にせずに母校の精鋭達を応援しました。

結果、6回7回で4点入れられ、4対12で試合終了(7回コールド)。試合には負けてしまいましたが、獨協関係者が一丸となり、1つになって母校の応援が出来た事、そしてなにより校歌を神宮球場で肩を組み唄えた事。素晴らしい思い出を後輩から頂きました。本当にありがとう!! We Love DOKKYO!!

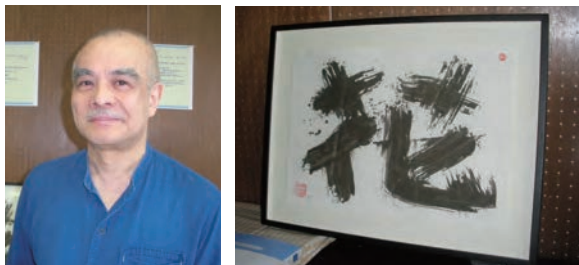
9/24・25 獨協祭参加「第1回 私の趣味・逸品展」特集

出品者と作品および制作エピソードなど紹介します

広報委員 沖山 秀司（昭和49年卒）

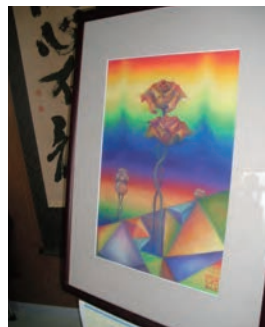
■ 花 昭和 37 年卒 天童大人（松本 匡史）

この版画は「HANA」は、イタリア、ミラノの出版社に送った作品の中から、彼が選んで初めて制作された版画集の中の一点。意味は知らず、形象からの選別。異国の人の視線に晒され、選ばれた漢字の作品「花」。得難い機会で、経験だった。



薇之詩（バラード）『二つの薔薇によるトリスタン』で追究してきた主題を継続しながら、「昇華（火）」「浸透（水）」「風化（風）」「結晶（土）」の4連作として制作したうちの1枚で、週末的な風景を色鉛筆とパステルで描いた作品である。

— 平成 28 年 5 月 12 日に逝去された恩師 成田 良行先生 を偲んで —



■ 初夏 昭和 42 年卒 野澤 正

獨協では6年間、美術の仁戸田（ニエダ）秀吉先生に絵を習いました。部活では、卓球部（中学）、化学部・文芸部（高校）に所属しました。美術部は、芸術家の卵たちの雰囲気と違和感を覚え、入部しませんでした。会社ではラグビーをしていましたが、55歳のときに朝日カルチャーセンター（新宿）で水彩画を始めました。その1年後には会社の水彩画クラブにも入り、68歳の現在まで続けています。水彩画は手軽で、経済的で、良い趣味だと思います。



「初夏」

本作品はカルチャーセンターで紫陽花を描いたものです。背景は好きに組み合わせてよいので、近所の家に咲く「のうぜんかずら」と長崎の「大浦天主堂」を組み合わせました。余談ですが、いままで徳島と高知を除く各県を旅行しましたが、一番印象深いのは高校の九州修学旅行で訪れた、宮崎日南海岸の青い海と鬼の洗濯岩の風景です。いまひとつの日南海岸と未訪問の大浦天主堂に是非行ってみたいものです。

■ 「二つの薔薇によるトリスタン」より『結晶』

昭和 47 年卒 中村 一哉

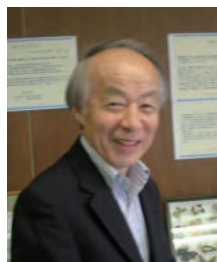
それまでの鉛筆で描いてきた無彩色の世界から、色彩を中心とする制作への転機となった作品で、平成9年に描いたものである。同時に、その後の私のテーマとなる「エレメンツ（四大元素）」のシリーズのスタートとなった記念となる作品でもある。鉛筆による「薔

■ 蝶蝶巡り

昭和 35 年卒 金 有一

還暦を機に、私は長年撮り集めてきた高山植物の写真を「花の山旅」と題して一冊の本にまとめ自費出版（2001.5）した。暫らくして、それまで私を駆り立ててきた花への執着心が以前のそれとは違ってきたことに気づいた。そんな折、本棚の片隅に置かれ久しく開いたことがなかった蝶の図鑑を捲ると、懐かしい蝶の姿が次々と現れた。ギフチョウ、ミヤマシロチョウ、オオムラサキと中学生の頃、夢中になった蝶たちが主役となってページを飾っていた。物置からは四十数年以上放置されたままの標本箱も出てきた。虫に食われバラバラになった蝶の残骸、ラベルに記載されていた採集地や年月日だけが遠い昔を思い出させてくれた。奇跡的に原型を留めていたギフチョウに付けられていたラベルには、採集地・志田峠、採集年月日・1959.4.2と書かれているではないか。私が獨協高3年生の時、神奈川県津久井郡にある古刹の長い石段横の植林地で採集したものだ。ラベルから入笠山、霧ヶ峰、姫川、日原、影信山などの採集地も読み取れ往時の情景が脳裏を掠め、長い間眠っていた私の狩猟本能が再び電撃のように目覚めた瞬間だった。

定年数年前の2005年10月、西表島の東部横断道の林道で採集をしていた折、長靴を履いて捕虫網を持った私とまったく同じ出立の中年のオジサンに出会った。一言二言と言葉を交わすうちに、数年前定年になり時間もあるので好きな蝶の採集に年数回この地



を訪れているとのこと。私の定年後の姿を垣間見たような気がし、過ごし方を教えられもした。最近、蝶果（採集できた蝶の成果）は無くても蝶に誘われ見知らぬ土地を訪ねる楽しみを覚え、北海道や八重山諸島はもとよりインドネシア、ネパール、モンゴルと「蝶蝶巡り」の旅を続けている。展示標本は、インドネシアの島々（カリマンタン島、ジャワ島、バリ島、ロンボック島、チモール島）の山中や溪谷沿いに棲息する種で、私が幸運にも採集出来た蝶の中から選んだものでありどれも思い出多いものである（ゴライアストリバナエゲハは現地の蝶案内人から譲り受けたもの）。

■ 妻を偲ぶ作品

昭和 20 年独 5 卒 黒沼 昭夫



展示物

- 1、 復活祭 澄子の記念句集
- 2、 ひとりごと 妻澄子を偲ぶ
- 3、 返 信 絵手紙



妻の趣味は私の趣味でもあると勝手に解釈して、文化祭の同窓会展示に協賛、出品することにしました。妻 澄子は絵手紙・俳句を習い、人にお見せできる所まできたと思います。平成 26 年 7 月に亡くなって、私は妻の記念句集をまとめました。日常の平易な句なのでその時そのときの生活を想い出させるので、私にとっては貴重な書物になりました。「仏を忘れないことが、最大の供養」と教えられ実行した次第、通常の句集とは異なるユニークな編集です。句集をご近所、趣味のお友達、学友等にお配りした所、絵手紙の先生から心打つ、すばらしい絵巻物を頂戴しました。それを文化祭に展示し、皆様にご披露する次第です。獨協は男子校だから妻関係の物でも良いだろうと思いましたのでご了解下さい。

■ 木額

昭和 20 年独 5 卒 神山 一郎

私は昭和 40 年代の頃、病院で診療の合間に若いころに習ったことのある書道に打ち込んだ時期があった。その頃属していた書道会の本部が富士吉田にあって、毎年夏富士吉田で篆刻と、木額の講習会があった。三日間しかなかったが、4～5 年は参加したと思う。そこで手ほどきを受けてからすっかり興味を持ち、それからは、師に就くことなく毎年何点かを製作し、医師会の芸術祭に出品したりして続いていた。今回は獨協の同窓会が文化祭に趣味の作品を展示することになったので気に入った作品をお目に掛けることにした。



「学びて時に之を習う、亦説しからずや。朋有り遠方より来る、亦楽しからずや。云々」

「論語 学而第一」

上の文章の後半、多くの方がご存知の一説を取り、これを篆書で書いて木額とした。

級友は卒後 70 有余年、すべてが米寿を迎えた今、その大部分は冥界に旅立ち、現在元気になっている友も大変少なくなりました。こんな時元気な級友と集い、取り留めのない話題で過ごしている時、生きていることの幸せをしみじみ感じている。「浮生夢の如し」「白駒の隙を過ぐるが如し」「邯鄲の夢」「光陰矢の如し」等という人生の短さ、時のたつ速さをこの歳になって実感し、深くかみしめている。在校生の諸君！ 短い青春の一日一日を大切に充実して生きて下さい。

「篆刻」

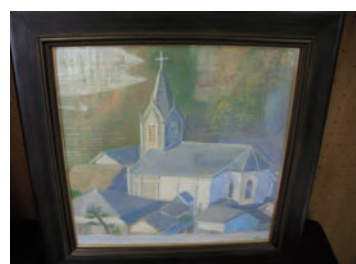
木額と同時に篆刻を展示します。篆刻は特殊な石に、中国の古い字（篆書）をノミで彫り、朱肉を着けて紙に捺したものです。展示したものは「龍蛇混雑」と書いてあります。この言葉は禅語で、龍も蛇も一緒にいる、という意味で文殊菩薩から見れば、凡夫も聖人も、智者も愚者も分け隔てなくそのまま仏法であるということ。

文殊菩薩の透徹した佛眼で見れば迷いも悟りも、善人も悪人も平等で一人一人が大光明を放っているという意味です。

■ 朝の教会

昭和 49 年卒 渡辺 哲之

1992 年に結婚した私は、新婚旅行も兼ねて九州の教会巡りのスケッチ旅行へ出かけました。この絵は、熊本県の崎津教会を取材してテンペラ画技法で描きました。テンペラ画とは、西洋で油絵技法が発明される 15 世紀以前から描かれていた古い絵画技法です。えのぐの粉末を水と卵の黄味で溶いて紙やキャンバスに定着させる技法で、日本画の技法にも近い描き方です。この絵はキャンバスに金箔を貼った上に、えのぐを乗せて行くイタリア中世シエナ派のテンペラ画法を私なりにアレンジして描いたものです。



■ 自作飛行機（木製）

昭和 20 年独 5 卒 佐藤 徳重

- ① ライト・フライヤー号
1903 年 12 月 36m/12 秒間と云う人類初の動力機による飛行に成功した。オーヴィルとウィルバーのライト兄弟による物であった。
- ② フォッカー Dr 1
第一次大戦時のドイツの撃墜王 リヒトホーフェンの最後の乗機。
- ③ ライアン NYP-1（スピリット・セントルイス号）
初の大西洋横断飛行に成功したチャールズ・リンドバークの乗機。1927 年 5 月 ニューヨークを離陸したリンドバークは嵐や睡魔と戦いながら 5,809km を 33 時間 29 分でパリ迄飛んだ。



- ④ 神風号
1937 年 4 月（昭和 12 年）朝日新聞社の神風号による訪欧飛行は 4 月 6 日 飯沼操縦士と塚越機関士の 2 人により東京立川を出発、94 時間 17 分 56 秒でロンドン到着、全航程 15,357km を平均速度 300km/h と云う驚異的国際記録を樹立した。同機は陸軍偵察機 キ 15 として製作されたものである。
- ⑤ 航 研 機
1938 年（昭和 13 年）5 月 13 日～15 日迄の 3 日間にわたり、木更津―太田―平塚を結ぶ 1 周 401.759km の三角コースを周回し、速度 186.19km/h で飛行して 29 周、総時間 62 時間 22 分 49 秒の周回飛行記録を樹立した。
- ⑥ 海軍 9 3 式中間練習機
昭和 19 年 9 月、私が海軍予科練習生を卒業し、茨城県の谷田部航空隊で生まれて初めて自分で操縦桿を握り空を飛んだ飛行機である。

■ 浮遊

昭和 22 年卒 大池 茂保

父子 2 代 獨協出身で父は大正 6 年卒です（右上矢野氏同様）。終戦後直ちに疎開先より帰京し 9 月より授業が開始されました。当時より卓球台の使用が可能となり同好者が昼・夜と使用し、獨協中学の卓球部が創立されました。今回は 40 年前より油彩に趣味を抱き（新構造展元会員）現在も続けております。その一点を出品致します。職業は 85 歳まで、整形外科の勤務医をしておりました。現在は暇を持て余す毎日です。



■ 掛け軸

大正 6 年卒 矢野 大珠

（昭和 22 年卒 大池茂保氏よりご出品）

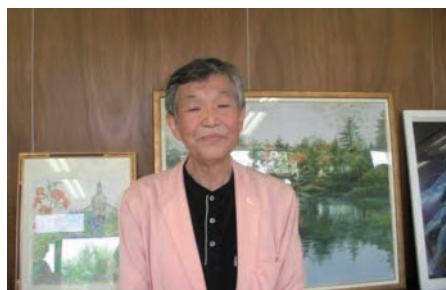
故 矢野大珠氏は、父大池安三の親友でした。父が他界した後、片付けをしておりましたら、矢野様の掛け軸が出てまいりました。このたび母校文化祭にと持ち込みました。校長先生や書道の先生に見ていただいたのを機に、本展示後は、母校に寄贈いたします。後輩諸君に見ていただけたら幸いです。



■ 軽井沢の雲場池

昭和 39 年卒 渡辺 光幸

獨協を出て、東京薬科大学に学び、現在、地元川口市で家業を継ぎ薬局を営んでいます。獨協時代から描くことが好きで、授業中でもよくイラスト風の絵を書いて楽しんでいました。それが高じて所謂「四十の手習い」で本格的に描くようになりました。当初は、油彩を好んでいましたが、ある時、埼玉県薬剤師会の会報誌の表紙を描くように頼まれ、水彩で仕上げました。好評で、それ以来、水彩画を続けています。この水彩画は、ある薬剤師会の軽井沢での関東甲信越合同大会の折に、軽井沢の名勝地として人気の高い雲場池で、スケッチをし、写真を撮り川口市絵画展に出品した作品です。いままでは、この 40 号程度の絵を年に 2 枚描いていましたが、ここ 5 年間は、なかなか時間が取れず、せいぜい何もない土曜日に絵筆をとる程度なので年にやっと 1 枚仕上げています。まさか今になって、母校の文化祭に OB として自作を出品するとは思っていませんでした。嬉しさと恥ずかしさと半々です。また、嬉しいことですが、「独協通信」には出していませんが、中学時代の仲間と毎月、呑み会を続けています。



■ 卒業証書・校章

昭和 31 年卒 島田 秀考

Geschichte von Dokkyo

このコーナーの展示品は卒業後、自宅で大切に保管していたもので、同窓会からの依頼で始めて家から持ち出したものです。一つ目は、中学と高校の卒業証書で、独協通信 86 号でもご紹介しましたが、天野貞祐校長先生がご就任以来、初めての証書。チョット誇らしいものです。二つ目は、やはり校章です。この校章

を改めて見ると背筋がピツとしたり、当時の仲間たちの帽子の被り方やその扱い方など、懐かしく想いされます。今の生徒さん達には、制帽が無いとのこと、年のせいでしょうか寂しい気がします。三つ目は、卒業アルバムと昭和 35 年発刊の卒業生名簿それに獨協学園 75 周年史などです。アルバムを見るとクラスの仲間や歴史的な木造校舎のことも思い出されますが、やはり、恩師の先生方の素晴らしさは、今でも鮮明に

記憶され、独協に学んでよかったと思っています。私の「独協の歴史」です、ご参考になれば幸いです。



獨協ぶらり旅

広報委員 谷田貝 茂雄 (昭和51年卒)

和食 島田洋服店

昭和 31 年卒業 島田秀考さん

今年 9 月、50 年に亘り地元で愛され続けた名店「島田洋服店」を閉じ、正に新規一店！「和食 島田洋服店」を開店。切り盛りは、娘さんご夫婦の島田 歩さんと由美江さん。板長の歩さんは義父秀考さんの永年に亘る、地味なコツコツと丁寧に服を仕立てていく姿に感動し、自分もいつも丁寧に心がけているとのこと。毎朝、築地での産地に拘る新鮮素材の吟味と仕入れ。仕込みから開店準備の頃、由美江さんが手伝う。二人三脚である。店の外観はロンドンの裏通りの「仕立て屋さん」で、内装は小奇麗で小粋な料理屋さん。三人のお人柄が、親しみのある、温かいお店で、素材と丁寧に向き合う姿勢が味に染み出ている。このリーズナブルなお値段でよくここまで提供できると、関心しきり。料理の味、お値段、お店の雰囲気そしてこの印象的な屋号、拘りの日本酒も魅力的です。予約の際には、「獨協OBです」と。

世田谷区太子堂 4-25-3, TEL: 03-3413-6336 定休日 日・月曜日
営業時間 17:30 ~ 22:00 (21:00 LO) 三軒茶屋駅 北口 A より 3 分



茶寮 (中国料理)

昭和 42 年卒業 猪田正道さん

上野駅から東へ徒歩 3 分。新しく建築された上野イーストタワーの裏手にあります。ご主人は大学卒業後、本格的中国料理を修行し昭和 57 年当初は麺類中心。その後本格的中国料理のお店として自宅で開業されました。海鮮中華がお勧めで特に春巻きは美味で、一度は食されたし！また、宴会コースもボリューム満点で飲み放題付きで格安です。同期生のクラス会は何度か行われているようです。

席もゆったりと落ち着いた店内、1 階はテーブル席、個室、2 階の宴会場は 60 人ほどの大人数でも OK！ 上野駅そして御徒町駅からも徒歩 3 分と近く、クラス会には最適です。

東京都台東区東上野 2-13-2 TEL: 03-3831-4206
営業時間: 11:00 ~ 14:30/17:00 ~ 22:00 (LO 21:00)
定休日: 日・祝日



福吉旅館 (日本旅館)

昭和 46 年卒業 鈴木 徹さん

昭和 33 年、井伏鱒二原作の「駅前旅館」が映画化され、そのモデルとなった旅館街はもうありませんが、今尚、1 軒営業を続けています。玄関、受付、廊下、部屋、風呂、トイレどこを見ても昭和の匂いがする素晴らしい旅館です。最近発売された「東京のすごい旅館」に掲載されています。是非ご覧ください。場所は、上野駅正面口より徒歩 2 分、昭和通りを渡り、200 m ほどの所にあります。

東京都台東区東上野 2-19-14 TEL: 03-3831-4329
宿泊: 常連様優先のため、要電話予約



和洋傘・ショール 仲見世もりた

昭和 52 年卒業 森田 一郎 さん

国内外を問わず東京観光の代表はなんと言っても浅草、そのメインストリート仲見世商店街にお店を構えるのは我が同窓生、この商店街振興組合の理事と広報部長も務めています。獨協中学に入学した動機は、小学校時代に入院した際、お医者さん達がカルテをドイツ語で書いているのを見て、興味が湧いた事によります。部活は生物部で活躍しました。獨協大学経済学部卒業後2代目として忙しいお店を切り盛りされています。お店の品揃えは抜群。雨傘、日傘だけではなく蛇の目、舞蹈用、そして外国人観光客がお土産にしたい美しい着物の柄やアニメキャラクターものまでとても楽しい専門店です。

東京都台東区浅草1-31-1 TEL: 03-3841-2966

営業時間: 10:00 ~ 19:00 定休日: 不定休



ぬしさ製作所 (漆器製造業)

昭和 30 年卒業 竹俣 瑛二 さん

東京の下町合羽橋本通りにある「ぬしさ製作所」を訪ねました。竹俣瑛二さんは、3歳下の弟さんと一緒に当時都電で獨協中学高等学校に通学していました。在学中はドイツ語クラス、一学年下には故古今亭志ん朝(美濃部 強次)さんが在学していました。

大学卒業と同時に家業の「ぬしさ製作所」で働きました。この製作所は、戦後の第2回国会以来70年以上、「氏名標」作りを一手に請け負っています。「指名票」とは国会の机の上の議員の名前が入った漆塗りの木柱です。また「投票用の木札」も制作しています。70年以上も同じ木柱が使われています。議員が引退、落選すれば名前を消し、そのあとに新たに書き込みます。前職の分はそのまま使えるので、新たに作るのは新人と元職のもの。氏名標は長い国会の歴史、日本の歴史、そのものだと言います。

株式会社ぬしさ製作所 東京都台東区松ヶ谷3-4-2



(株)渡辺眼鏡店

昭和 55 年卒 渡邊 晃吉 さん

お洒落な店構えと ファッションな商品ラインナップから獨協と同じ位の歴史 来年創業 130 年を迎えるとは知りませんでした。長寿企業の共通点 たゆまぬ進化を感じます。4代目の渡辺社長は御父様の勧めで獨協中学に主幹は後の埼玉獨協の校長に就任した石井 征次 先生 獨協大学卒業後は家業に。他店にはない優れたデザインのメガネフレームが多数あるのは センスの良い社長のドイツ、ベルギー、デンマークへの直接買い付け だからと言えます。一方、世界が目にする福井県鯖江のブランド品、東京の希少ベッ甲メガネ、さらに趣味で収集されたアンティーク品もありワクワクするじっくり見学したい博物館といえるでしょう。

台東区浅草1-16-7 定休日 毎週火曜日

営業時間 9:30 ~ 19:00 電話 03 3841 7466



VAN SHOP KURAMAE

昭和 42 年卒業 山藤幹男さん (野球部)

最近、川の手の特産・タウンとして注目を集める蔵前に、山藤幹男さんが現在CEOを務める株式会社ヴァンジャケットの旗艦店 "VAN SHOP KURAMAE" がオープンしました。60年代、70年代、一世を風靡した団塊世代憧れのI V Yスピリット発祥の再来のお店です。当時、獨協にはVANファンのI V Y少年が沢山いたように記憶しております。I V Yスタイルを再度味わってみては如何でしょうか。

都営浅草線「蔵前駅」より徒歩3分

住所 台東区蔵前4-11-6 電話 03-6821-6080

営業時間 平日 10:30 ~ 18:30 土日祝 11:00 ~ 18:00

火曜日定休



ヨーロッパ tram 巡り 第2回 Bad Schandau

谷口 有三 (昭和 53 年卒)



フランクフルト駐在員時代に、恩師の故合田憲先生が二度訪ねて下さった。その時は待ってましたとばかり有給休暇を取って先生と一緒に旅行を楽しんだ。一番の思いでは当時ドイツを東西に分断していた鉄のカーテン越しの東独覗き見だった。監視塔が数百メートルおきに立っており 今の北朝鮮と変わらぬ位の緊張感が漂っていた。先生も「この調子じゃ 東西統一はないなあ」ともらしていたのが耳に残っている。あれから 30 年、東西統一から月日が流れた一昨年、先生と訪ねることが出来なかった旧東独に位置するザクセン地方を旅した。バート シャンダウ、国土の 8 割が平野にあって山岳と深い森が続く地域から“ザクセンスイス”と呼ばれている。なぜ ここを訪れたか？それはドイツ民主主義共和国の残照を求めたためであった。当時はクルマといえばトラバント 愛称トラビイー車種のみで東独の風景そのものだった。これは路面電車も同様で後にコメコン加盟国共通仕様車「タトラカー」がチェコスロバキアで集中生産されるまでは、二軸単車の小さな「ゴータカー」ばかりだった。しかし統一ドイツ政府は路面電車を含めた大々的インフラ整備投資を行ったため、旧東独地域どこへ行ってもへろへろ軌道にくたびれた単車は見られなくなった。しかし、この辺鄙な山奥には忘れられたように小さな電車がひっそりと行き来していると聞いていたので訪れることにした。

始発は鉄道駅に接続していない人口 3 千人のバート シャンダウの町外れの公園の片隅から発車し、途中“停車場”と表現したい 7 か所の森の中の駅を辿りながら約 30 分で終点のリヒテンハイナー・ワッサーファル (滝) に到着する。私は乗る機会が無かったが日光駅から馬返まで昭和 43 年まで走っていた東武鉄道の軌道線に沿線の雰囲気は似ているのではないかと



思う。終点の周りにはキオスクと食堂がそれぞれ一件だけで、駅名の滝もお世辞にも観光名所とは呼べるようなものではなく、写真を撮らなかつたことに後悔はしていないほどだ。何でわざわざトラムを敷設したか疑問を持つが調べてみると、あと少し伸ばせば国境でチェコまで乗り入れる構想があったが頓挫してしまって中途半端な路線になってしまったようである。晩秋の平日夕方には人はおらず、私も散策することなく停車場で折り返し電車を仕立てる初老の女性運転手の作業を眺めていた。彼女は馴れた手つきで運転台のある電動車を先頭に移動させ付随車を繋ぎ、長い棒でポイントを進路方向に切り替えて運転席に納まり正面ガラス越しに遠くを眺めていた。その目は心なしか過ぎ去った時代を回顧しているように見えたのは私の作り話かもしれない。わずか 8 キロの単線の上下りの毎日、しかし大きく変貌した国家体制の中で車窓を流れた景色は変化に富んだものだったろう。

(次回はイタリアのドイツ語地域ボルツァーノのトラムを紹介します)

目 白 だ よ り

感謝をこめて、成田先生を偲ぶ

昭和47年卒 中 村 一 哉

成田先生との出会いは、昭和 45 年 (1970 年)、私が高校 2 年の時のことである。新年度、新たに獨協学園に赴任された成田良行先生は、長い髪をかき分け、幾分、神経質そうな眼差しと甲高い声で教壇に立たれ、美術の授業に新風を吹き込まれて、新鮮な印象をもって受け止められたことを覚えている。

当時は、まだ生意気盛りの高校二年生。美術部だった私たちは、その年の文化祭で、通常の絵画展示ではなく、美術室全体を作品として展示する環境芸術を目指すことを思いついた。天井に紐を張り巡らせて暗幕

で覆い、机も全て布で覆った。床にはグラウンドから運び入れた砂を敷き、時間の流れを表す砂地に人の営みを表す像や書籍を置いて、蠟燭の明かりで照らし出して生まれた空間は、何とも不思議なもので、受け止め方は賛否両論、様々あったように記憶している。そう



した私たちの発案と試みを、顧問の成田先生はおおらかに受け止め認めてくださった。高校生だった私たちに、当時、校舎内で蝋燭をともしことが消防法に抵触することなどと思い付くはずもない。多少、困ったような笑顔の奥には、成田先生なりの思いや困惑があったこととお察しする。「あの時は、色々言われたよ。」と言洩らされたのは、時間がかかり経過した私たちが社会人になってからのことである。知らずにご迷惑をおかけしていたことに恥じ入るばかりである。しかし、あの時の経験は、今でも獨協での学園生活の貴重な一コマであることに変わりはなく、成田先生との思い出の場面としても忘れられないものである。今はただただ深く感謝するのみである。

そんな成田先生に恩返しをする機会もないまま、本年五月、ご逝去の報を受けた時には、言葉に尽くせない哀しみがこみ上げてきた。肝臓がんの手術後にお会いした時に撮った掲載の写真を見ても、先生のお姿は若々しく獨協で教鞭をとられていた時と変わらない。その後も入退院を繰り返しながら病魔と闘ってこられたことは伺っていたが、あまりに早い訃報である。改めて今年の先生からの年賀状を取り出してみると、そこにはペンで描かれたゴリラの家族が描かれていた。これまでも成田先生は家族の温かさをテーマにした絵を描かれてきたが、文面はこれからの日本の社会、若者の行く末に深く思いを寄せる内容だった。先生の絶筆であり、私への最後のメッセージとしていつまでも大事にしたい。

ご存命なら先生は今年で75歳。まだまだご活躍が

期待される年であり残念でしかたがない。しかし、今はただ、感謝しつつ安らかに憩われることをお祈りするのみである。

中村一哉氏 プロフィール

昭和47年に獨協学園高等学校を卒業し、多摩美術大学の卒業後、昭和52～53年度の2年間、獨協学園中学校で美術科の非常勤講師を務めた。

その後、東京都の公立中学校の美術科教員として教鞭をとり、平成8年からは教育行政職を歴任した。平成19年から9年間、府中市立府中第五中学校の校長として勤務し、各種美術教育団体の会長職等を担うとともに、平成25年度の東京都中学校長会の会長を務めた。



成田先生を囲んで 2008年8月9日撮影 新宿にて

クラス会だより

昭和20年独5卒 「芽城会」米寿を迎えたクラス会

卒後70年を経て、米寿とやらの宿駅に辿りつきました。その旅程は厳しく多くの級友達が夭折、或るいは病にて旅立ちました。我ら芽城会では、未だ身体をなしている内にと、4月20日、鎌倉市扇ヶ谷の1636年（寛永13年）創建された古刹にして、鎌倉唯一の尼寺である東光山英勝寺（徳川家康に仕えた英勝院尼が、三代家光の時代に開基）において級友達を偲ぶ法要を行いました。

参加者は8名でしたが、水戸の徳川光圀も礼拝したという歴史を重ねる、美しい竹林と花々に囲まれた静寂な結界の中で、彼ら98名を偲び、いずれ行く彼岸での再会を約した次第です。（記：畦森公望）



昭和31年卒 ドイツ語組 クラス会

28年6月5日 西荻こけし屋でクラス会を開催しました。恩師、富岡近雄先生は車椅子でのご出席、付き添われた令夫人も久しぶりの御参加でした。

10年前と同じく令夫人には小倉君（元級長）よりアートフラワーを贈呈して、我々クラス会一同の感謝の意を表しました。

前回のクラス会はわずか4名のみの出席で幹事の責を問われる事態でしたが、会への参加者拡大を図るために毎年開催会場を移動し、参加が難しい人の近くで同窓会を開催したらとの発案で野今回は第1回目、奇しくも今回は卒業60周年と重なり今年は9割の出席者を確保出来ました。それでも親子3代、獨協卒の小



野君が芦屋から出席できない体となり、また、この会への出席を楽しみにしていた大谷君も体調不良が長引き欠席、しかし富岡先生の御出席は我々にとっては何よりの大きな喜びとなり、活気のある会場となりました。50 周年の時には久しぶりに学生時代を思い出し富岡先生に出席を取っていただいてから着席したのですが、今回は自己紹介をしてから席に着きました。

料理が運ばれ、アルコールも回り始まる頃には多種多様な話で盛り上がり、昔に帰って恩師やクラスメイト達と楽しく過した時はまたたく過ぎ、「また、会う日を！」の言葉に万感を込めて散会しました。

(記：山口眞護)

昭和 39 年卒 同期会

7 月 3 日（日）、神保町「学士会館」に於いて、我ら 39 年卒業の全クラスを対象とした同期会（独協通信 85 号で告知）を開催。昨年 6 月 7 日、帝国ホテルでの古希の会に引き続き参加した者、また、初めての参加者を含め、約 50 名が集い、盛会であった。いつもながらご参加くださるお元気な恩師、写真前列右から 5 人目の横山先生から左へ上林先生、本田先生、吉田先生。同窓会からは浅野会長（前列右から 4 人目）と同 39 年卒の副会長柳原（前列左端）が参加。昨年同様、奥様方 3 人が加わり、和やかで、賑やかな会となり、途中、ピアノ演奏もあり、参加者に合った「上品な？」雰囲気を醸し出した。校歌、再会を約す。

次回、2017 年 5 月 15 日（月）

目白駅前「リュドヴィンテージ目白」（記：柳原）



昭和 41 年卒 獨協 1 月会

50 回 平成 28 年 1 月 16 日（土）

場所：横浜中華街 鵬天閣

今回も幹事は、横浜在住の組みの佐藤君と山下君に頼みました。出席者は、佐藤和美君、小杉喬志君、山下 潔君、篠田伸正君、堀江重之君、森田芳和君、菅谷健一君、藤井哲夫君、島田博君と中村昭美君の 11 名。毎年 25 名のメンバーに連絡を入れておりますが他の会と重なっていて出席できないとの理由が多く回答してきます。でも 45 年前からこの会は 1 月の第 3 週土曜日と決めておりますのでいつでも出席されるメンバーは変えない方がいいとのこと。

今回の場所は横浜の友人から照会されて今回欠席でしたが河崎達彦君と下見をして決定しました。

今回は菅谷君の初参加をいただき久々に篠田君も出席されていていつものように各自近況の補遺う国をして盛り上がり、欠席者の近況も私の方から報告しました。

来年は古希を迎えるので、他のクラス会にも連絡して合同学年会を計画しようと参加者の同意も得ましたが、1 月会もやって欲しいとの意見もあり、欠席者の参加しやすい場所を検討知ることになりました。来年は 1 月 21 日（土）に東京駅近くの店を計画しております。

なお、古希の会は 9 月 24 日（日）16 時頃目白の椿山荘でやる予定です。お誘いあわせの上ふるって参加してください。

予定では、その日は獨協祭を開催しており、最終日の展示になると思います。獨協祭には同窓会の展示室もありますのでその時間まで見学して下さい。（昭和 28 年幹事 中村昭美 古希の会連絡番号 048-666-3613 自宅）

(記：中村昭美)



昭和 41 年卒 2016 年第 14 回 ミニクラス会

平成 28 年 1 月 30 日（土）に開催しました。

場所：有楽町：中華料理 慶楽

毎回幹事は平岡君がインターネットと電話で連絡をして昭和 35 年中学入学 2 組を中心に 1 組の一部のメンバーで開催しております。今回の参加者は岸君、喜多君、上原君、石田君、斉藤君、島田君、菅谷君、巢瀬君、相馬君、立野君、増田君、山口君、横山君、正木君、野村君、平野君、平岡君と中村の 18 名です。

私も昨年から参加させていただきましたので、顔と名前が一致しない友人もいましたが、中学、高校時代に数学を教えていただいた相馬君にお会いできて感動しました。



横山君より以前から提案されていましたが、合同クラス会を来年の9月24日(日)16時頃から目白の椿山荘で古希の会として開催してはどうかと話をしました。時間があれば参加するとの同意を得ましたので実施するようにしました。この会は獨協中学の時主幹だった栗原幹夫先生のご指導をいただいた2組の会で、7月第1週の土曜日にも開催しております。「冬に参加が難しい方は夏に参加していただければ幸いです」と平岡君は考えておりました。今回は毎回参加されていた茂木君が4月に他界されて残念な報告も7がつにありました。ご冥福をお祈り申し上げます。

(記：中村昭美)

昭和42年卒 OB会

9月28日(水)、飯田橋のレストラン「TORINO」にて18名出席のもとOB会を行いました。

(出席者)

青柳英一、秋山純夫、浅野一、天野武城、池松武直、石川博文、奥村親、海田正則、梶井誠、小林優元、須藤明弘、田口博雄、野澤正、浜村学夫、伏見建二郎、堀洋一、山川泰燿、吉川勝

本OB会は平成20年に椿山荘で開催した「還暦同窓会」の幹事連が中心となり、年間5回程度懇親会を行っているものです。当日は、本OB回に初めて奥村親君、伏見建二郎君が参加しましたが、卒業以来の再会となった人も多く、互いに相手の変貌ぶりに戸惑う光景が見られました。本OB会では昭和42年卒の方々が来年数え年で古希を迎えるのを機に、平成29年3月18日(土)に椿山荘にて古希同窓会を予定しています。幹事は還暦同窓会と同じく、(全体取り纏め)浅野君、(独語クラス纏め)野澤、(英語クラス纏め)海田君、(司会)須藤君の他に、今回獨協同窓会の濱村君に加わって貰いました。本年8月には同窓生に予告案内を郵送し、出欠予定の確認及び住所不明者の情報提供等と呼びかけましたが、正式の案内は来年1月に発送予定です。

(記：野澤正)



昭和47年卒 3年1組(還暦+3年)同窓会

昭和47年1組卒業のクラス会が5月21日、目白の中華料理店『揚子江』にて催されました。皆が還暦を迎えてから2回目の集いで、16名での参加とな

りました。我々1組独逸語クラスでは中高6年間クラス替えが行われなかったために今年は中学入学後50周年の記念すべき年でもあり、大いに盛り上がりました。今後とも集える機会をできるだけ持って続けていきたいと考えております。(記：大石・眞田)



昭和49年卒 3組金先生クラス会

昭和49年卒業3組金先生クラス会を平成28年6月4日に、金先生を御迎えして神田三省堂地下一階に有る『放心亭』にて開催、参加者は12名。宴会の前に学生気分に戻って数十年ぶりの御茶ノ水界隈を散策、書店巡りや楽器・CD(レコード)・スポーツ用品店等のひやかしをし、買い物してきた様です。酒席の時にそれらを出し話が盛り上がり楽しい時間が過ぎました。次回クラス会を8月に館山の『獨協学園海の家』で開催する事を決めて閉会しました。



昭和49年卒 有志クラス会

平成28年6月11～12日、熱海にて石井征次先生をお招きし開催しました。なかには先生と43年ぶりに再会した者もあり、昔話に花が咲きました。私た



ちは月に数回の飲み会、年に2～3回の旅行、と60歳過ぎてから会う機会がますます増えました。

(記：滝沢)

昭和53年卒 獨協ハーフ会

去る9月3日(土)に恒例の獨協ハーフ会(昭和53年獨協高校卒業生有志の会)が『上野精養軒3153店』にて開催されましたのでご報告致します。当日は恩師 富岡 卓先生にご参加頂き22名の同期が集い楽しく飲み語らいました。谷口有三・中村光彦・鷺谷 敦・黒米健治・遠山洋一・勝又清伊君など初参加組も多数おり卒業以来約40年ぶりに再会した者もあり 話は尽きず、一同獨協生に戻り全員二次会までお付き合い戴きました。

来年もまた九月上旬をメドにお声掛け予定です。

同期の皆さん、我らも齢50代後半となり今だに悩み多く(仕事・育児・子育て・親の介護・自身の健康問題などなど)いろいろな意味で大変な時期であるとは思いますが、4年後東京オリンピックもありますし、人生ハーフ もう一踏ん張り頑張りましょう。

(記：西原由恭)



2010年卒 同窓会 “25歳になる前に…”

2016年3月12日(土)に、新宿の京王プラザホテル 44Fアンサンブルにて3回目の同窓会を開催しました。

当日は、年度末で忙しい中、技術情報科の桑原(佐瀬)忠司先生と家庭科の後藤敬子先生にご出席をいただき、25名が日本全国から集まりました。

スカイツリー・新宿の高層ビルなどの夜景を見ながら近況を報告しあい、桑原先生が持ってきてくださっ



た在校時の写真を見ながら思い出話に花を咲かせました。仕事に打ち込んでいる、研究や資格を得るために勉学に励んでいる、婚約したなど皆様々な道を歩んでいます、すぐに盛り上がり楽しく過ごせるのも獨協の素晴らしいところだと思います。

場所をかえて二次会も行ない、仕事等の都合で二次会からの参加者も加わり、大いに盛り上がりました。

今回は、卒業時の学年会の先生が勇退させる時に開催することを決め、一本締めをして、閉会となりました。

平成28年 松本歯科大学獨協会

今年の松本歯科大学獨協会は、平成28年7月23日(土)、新宿大久保の「がんこ お屋敷・新宿山野愛子邸」に於いて、参加者10名にて開催いたしました。

会長の真砂功先生(S47年高校卒)による総会開会挨拶の後、活動報告が行われました。

まず、橋口庶務(S53年高校卒)より庶務会計報告を行ったのち、真砂会長より、今春開催された歯科医師獨協会の総会及び懇親会報告があり、同会世話人会報告を橋口より行いました。最後に生田哲先生(S50年高校卒)より、獨協同窓会総会及び懇親会、獨協高校の現状の報告と説明がありました。

真砂会長による乾杯のご発声で一同乾杯し、懇親会に移りました。会員のほとんどが50歳越えになったこともあり、歓談では、話のテーマがセカンドライフであったり、介護をするより受ける方の話であったりと、限界集落的?な香りというか、匂いを漂わせるといっきや、参加されたほぼ全員の先生方が、若い仲居さんに大いに興味を持ったところを見ると、諸先生方の真の引退はまだまだ先という感じを受けました。

懇親会は清藤太郎先生(S48年高校卒)の中締めの挨拶の後、会場の庭園内で、若い仲居さんの手による記念の集合写真撮影を行い、2次会会場に移動となりました。

今年の2次会は全員参加となり、夜な夜な大盛り上がりのうちに会はお開きとなりました。

(記：昭和53年卒 橋口英生)



第8回 杉並獨協会

1年振りに平成28年7月3日、荻窪の海鮮魚こう荻窪本店で開催。出席者は大先輩の田村馨(昭26)、

久保弘一(昭34)から若手の浜島浩史(昭54)等14名、昼食を共にしながら元気さのアピールと近況報告。昭54卒の田中良・杉並区長と杉並区民でもある出席者と同窓ならではの自由な意見交換。杉並区周辺在住の若い世代のOB諸兄の参加を呼び掛けることで意見一致。獨協会に参加希望の方は同窓会事務局にご連絡いただければ、次回会合時ご案内します。

(世話人：昭54 長田茂、昭35 金有一)



獨協学園放送部OB会と大澤悠里君を囲む会

平成28年8月7日、小石川後樂園涵徳亭にて11年ぶりに開催いたしました。放送部は昭和28年卒業の浅井英雄さんを筆頭に昭和38年卒の姫路獨協にて教鞭をとった故合田 憲先生40年卒の高野邦彦君を最後にたった13年程しか続かなかったが、其の間数々の舞台俳優や放送関係者を排出した。

大先輩の浅井英雄さんはDJの初期の頃から長く愛され、演劇や山田洋次監督作品でも活躍した遠藤正登君、労音の舞台や声楽で今でも活躍している滝沢真佐之君、そして電通時代から日本放送の深夜放送でも活躍した中川勝介君、なんといってもTBSの大看板で名物アナウンサーでもある大澤悠里君など、13年の間に沢山の人材を輩出しています。

また、昭和30年卒の川村孝一さんと言えばスケート界では有名な方だ。その他にも紙面の関係から書き



きれない方々が放送部から卒業されている。その一方で放送部を設立した川口喜八郎さんが大切に保管されていた、あの昭和27年の獨協騒動の生徒会の録音テープから学園改革要請決議文、そして天野貞祐校長就任決定の読売新聞に至るまでの色々な資料まで今でも私が大切に保管している。(一部は獨協大学にも私が提供し、保管展示されていると聞く)

もし、放送部が存続していたら沢山のアーカイブスが聞けたことだろう。獨協騒動をご存じの方も少なくなりましたが天野貞祐先生の校長就任がどれだけ獨協学園の今日に大きな功績を残されたかをもっと知ってほしいものです。

以上、ご報告と獨協学園の益々の隆盛を祈念致します。(記：昭和32年卒 橋本正樹)

ワンダーフォーゲル部OB会「秋の親睦会」

ワンダーフォーゲル部は創部から61年、OB会も設立から30周年になります。今年は7月に小石川後樂園の涵徳亭で総会を行い、9月18・19日には小諸の「日新寮」をお借りして親睦会を行ないました。野外でのバーベキューを予定していましたが、台風16号接近のため食堂でテーブルを囲んでの会食になりました。参加者は打矢(31年卒)、若井・井上(32年卒)夫妻とご友人4人、千野(33年卒)夫人、佐藤(35年卒)、富樫(43年卒)、二村夫妻・手島(47年卒)、中野・柳澤(49年卒)、そして顧問だった金先生(35年卒)・故高梨富士三郎先生ご子息一家の総勢20名で楽しいひと時を過ごしました。残念ながら翌日予定していたハイキングは中止となり、またの機会を楽しみに午前中に解散となりました。ワンゲルOB会のホームページもこの度リニューアルして同窓会のHPにもリンクしてあります。卒業後ワンゲルから遠退かれてしまっているOBの方もぜひHPを訪ねてみて下さい。参加を期待しています。(敬称略) (記：手島(47年卒))



平成29年 クラス会・同期会開催予定のお知らせ

卒 年	会合名	日 時	場 所	幹 事
● 昭和39年	39会同期会	5月15日(日) 13:00～	リュドヴィンテージ目白	大塚・加藤・柳原
● 昭和42年	古希の会	3月18日(土) 10:00～	獨協高校・椿山荘	浅野・野澤・海田

●小生日本大学理工学部を卒業後さる銀行に勤め 39 才のとき独立して洋書輸入の会社をはじめました。(数学書専門)それから 52 年今では倅に仕入れ販売を譲っておりますが、毎日出勤致しております。

＜福本 理 (昭 12 卒)＞

●独協通信懐かしく拝見させていただいております。有難う御座居ます。診療所は息子、孫に任せて私は病院通いです。総会には出席出来ませんが、益々の御繁栄をお祈りします。

＜中島 一 (昭 12 卒)＞

●昭和 20 年 4 年卒業、英語科の石井進です。このクラスはクラス会同期会を結成し、今年で 41 回を数えます。獨協中学校に想いを馳せ、今年はすぐ前の椿山荘で行うことにしました。私がここ 20 年世話人をしてきましたが、だんだん参加者が減り今年は 10 名位でしょう。話はだいたい戦時中の獨協での生活のこと、空襲、動員ですがやはり当時すばらしい先生方の話には熱が入ります。本当にリベラルないい先生方でした。

＜石井 進 (昭 20 卒)＞

●総会出席の予定ですが、大腸ガン再発。入院手術が予定されていますので欠席になる可能性が高く、ご了承下さい。

＜黒沼 昭夫 (昭 20 卒)＞

●平成 26 年 (86 歳) で医業から一切引退 (医師会 は入会のまま)。今は気の向くままの毎日、趣味三昧の日々です。年に 1～2 回の外国旅行、数回の国内旅行をたのしんでいます。獨協で独逸語を学んだお陰でドイツ旅行は一段と楽しく過去 4 回のドイツの旅、3 回のオーストリアの旅をたのしみました。

＜神山 一郎 (昭 20 卒)＞

●小生、4 月に満 89 才になり、90 才に向けて歩み始めました。幸いにも元気に過ごしております。満 81 才になる妻を伴って都内や近郊にある美術館を訪れて、そこで特別展示されている絵画などを鑑賞してこうと思っています。

＜平澤 昭彦 (昭 20 卒)＞

●ここ数年突然のギックリ腰 (魔女の一撃ともいわれる)、最近では脊柱管狭窄症ということで年中続く腰痛になやまされ乍らの毎日です。本年 10 月には米寿を迎えますがさて今後の経過はどうなりますやら？

＜横井 弘幸 (昭 21 卒)＞

●光陰矢のごとし。元気で何とか生きています。

＜大場 莊介 (昭 23 卒)＞

●毎回「通信」有難うございます。特に先回の「戦時下の獨協生・・・」特集号興味深く拝見しました。小生まずは元気に過ごしています。しかし最近 (といっても 3、4 年たちますが) まで健在だった級友の訃報はこたえます。

＜橋本 徳朗 (昭 23 卒)＞

●84 才になり、東京 40 年、神戸 44 年で神戸の人となりました。学友・親類全て東京なのでどうしても会社 (三菱倉庫) OB との定例呑み会で脳の劣化を遅らせるべく喋って嫌がられる老人を演じています。同期の友とは文通を続けています。

＜橘 葵 (昭 25 卒)＞

●空前の猫ブームである。その経済効果は年間 2 兆円、ネコノミクスと称えられている。かくいう私も 3 年前からエジプシャンマウという希少種的美猫を飼育、否、むしろ女房と二人でお仕えしている。そのため女房に人猫共通疾患の“猫背”が感染してしまった。

＜本田 光芳 (昭 25 卒)＞

●現在、日本大学医学部 4 年に無事進級できました。後半も気を抜かず頑張ります！

＜佐藤 侑哉 (平 25 卒)＞

●27 年卒毎年 9 月末にトリノにてクラス会を催しており、毎回 20 名以上再会しております。小生もお陰様で 82 才に成りましたが元気に孫娘 7 才と楽しい毎日を過ごしております。ドイツ語クラスの仲間 4、5 人にて毎年旅行会を楽しんでいます。

＜末吉 信夫 (昭 27 卒)＞

●齢 83 才も間近ともなると獨協生の頃がとても懐かしい。現在でもあの 10 才代の生徒が獨協で学んでいると思うと又仲間になりたく思います。姪の息子が獨協高校の 1 年生、ひとしおその姪の子が可愛く思える昨今です。特に独協通信は小生の大好きな読物で、レンジ片手に端から端まで読んでます。昭和 21 年中学入学生から獨協生の学力がすこぶる悪くなったと故大久間先生に聞きました。私も昭和 21 年の敗戦第一期生でした。

＜筒井 昭 (昭 27 卒)＞

●毎年 6 月の第三土曜日は私が会長をしている「世界文学会」総会と重なり、出席出来ません。悪しからず。

＜酒井 府 (昭 28 卒)＞

●デジタルカメラの出現以来、その便利さに楽しんでいましたが、最近になって、銀塩カメラが恋しくなりました。そして暗室での薬品のニオイが懐かしく思い出しています。

＜赤堀 光男 (昭 28 卒)＞

●傘寿も過ぎ四年後の東京オリンピックを迎えることを夢見ています。趣味のアマチュア無線 (ハム) コールサイン 7N1HZL は開局して 25 周年になり、まだ現役です。獨協のクラスメート 6 名と年一回一泊旅行を楽しんでおります。

＜井上 正明 (昭 29 卒)＞

●獨協高校を卒業してから 63 年が経過し 81 才になりますが、幸い大病にもならず元気に過ごしています。

＜小島 敏昌 (昭 29 卒)＞

●獨協同窓会には 5,6 年前に出席しました。毎年 2 回 5,6 名の獨協生と旅行しています。秋に甲州の軽井沢温泉に行く計画しています。3 月は伊豆大仁温泉に長畑君、室井君、甘楽君と 4 名で旅行しました。

＜森田 孝 (昭 30 卒)＞

●足をケガしており、腰痛も続いています。何年かはダメだと思います。よろしく！

＜宮崎 富美雄 (昭 30 卒)＞

●昨年歯科医師獨協会に初めて参加。新校舎の玄関前で天野校長先生にバツタリ。お逢いして高校時代先生の講話をもっと良く拝聴しておけばよかったと後悔しきり…。

＜飯田 英雄 (昭 32 卒)＞

●公立病院を停年退職後、私立の病院で週 4 日働きながら自分の健康は自分で護るをモットーに、後期高齢者となった体を金のかからない健康法、症例 1 で実験、実践中です。

＜福井 秀義 (昭 33 卒)＞

●定年後元気にやっています。皆様によろしく。

＜吉田 浩 (昭 35 卒)＞

●昭和 35 年卒 (独語クラス) の赤生東一郎君の住所が判明致しましたので報告致します。独協通信を次回からでも宜しく願います。

＜池野 満義（昭 35 卒）＞

●府中の調剤薬局で管理薬剤師をしています。毎年獨協中学のクラス会に出席して悪ガキどもと当時の思い出話をしています。

＜小松 邦彦（昭 41 卒）＞

●ウルトオーファン専門の製薬会社で品質管理保証責任者として勤務しております。

＜春木 左千夫（昭 42 卒）＞

●介護老人保健施設長として医療と介護に従事しています。

＜引間 規夫（昭 42 卒）＞

●約半世紀前に卒業して、振り返ってみると色々な事がありました。運は人が運んで来るものだから 1 人 1 人を大切に接する事が大事だと思います。人生の大先輩の受け売りですが、その通りでした。そして最後はやはり家族を大切にかな…。

＜村上 喜代次（昭 43 卒）＞

●帝京幼稚園⇒王子第三小学校⇒獨協中・高・大⇒大日本図書。赤羽志茂町で生まれ稲付公園⇒十条⇒浦和⇒北浦和⇒鷺宮⇒大宮に居住。中高のサークル：剣道部（中学 1 年）吹奏楽部（中学 3 年間）グリークラブ（中・高の 6 年間）に所属。肝臓がん 5 回手術、右足ヒザ壊死で人工関節挿入、白内障・緑内障・糖尿病で毎日 insulin 接種。現在 64 歳。8 月より年金生活に入る。退職金家族なし・親戚・近所付き合いなし。残された人生、引き籠って蔵書の整理と読了に心がける。2016 年 5 月 6 日記

＜青木 秀夫（昭 45 卒）＞

●医療財団の役員として働いています。まだ 2～3 年は続きそうです。有難く思います。初孫のために頑張ります。

＜千葉 実（昭 45 卒）＞

●本年 7 月 1 日より 1 年間埼玉県浦和ロータリークラブ第 63 代会長職を拝命致します。獨協同窓諸氏でロータリアンの方々、今後とも宜しくお願い致します。

＜武井 雅史（昭 46 卒）＞

●自分も 63 才、3 人の子男 2 人女 1 人に恵まれて妻と楽しく生きています。妻にはたいへんありがたく思っています。

＜矢野 元重（昭 46 卒）＞

●薬剤師でありながら約 20 年前に横浜市大医学部にて医学博士号をいただきました（C 型肝炎に関する研究にて）。ドイツ語クラスでしたので英語には苦勞致しました。獨協時代は化学部でした。文化祭ではメダルをいくつもいただきました。63 才と成り青春時代がなつかしいです。

＜石川（熊澤）英二（昭 46 卒）＞

●昭和 47 年卒、今年で 63 歳になります。さいたま市北区で開業している内科医（内科・小児科）です。今後も地域医療に貢献していきたいと考えています。

＜箕田 進（昭 47 卒）＞

●私の高校時代の友人で M 大生の K 君は大学卒業してしばらくしてから突然ドイツ（当時は西ドイツ）に行くと云って渡独しました。数年後あるところで、来日したドイツの方の通訳として登場しました。ビックラポン!! です。当時ドイツの“ド”の字も友人からは出てこなかったのが、今やドイツ語の通訳です！カゲながら努力したんだナとあらためて思う今日このごろです。「聞き流していればある日突然……」ならいいのですがね!! そんなウマイ話はありませんか？

＜田原 理一郎（昭 48 卒）＞

●前月に 7 回ホッケーを楽しんでいると報告しましたが、所属医師会が同じ精神科の先生が加入しました。ナント！獨協 S41 年卒の先輩でした!! 「先輩！パスいきます」90 分の練習中何回そんな声がリンク中をこだますることか。

＜大島 康成（昭 48 卒）＞

●平成 28 年熊本地震に被災するも、東京在住の獨協中学校同窓会友人多数より激励と御見舞いを寄せていただきました。感謝の念にたえません。中学校入学が昭和 42 年、半世紀の星霜を経てなお往時の朋友健在たり。天災地変もこれを覆すあたわず。これより復興再建に傾注尽力して参ります。ありがとうございました。敬具

＜船瀬（林）道亮（昭 48 卒）＞

●60 才で定年退職し、第 2 の人生も丸 1 年過ぎました。まだまだ元気で英語教育にたずさわっていきます。

＜飯塚 睦（昭 48 卒）＞

●30 年来、横須賀で歯科の訪問診療をやっています。同窓会の方で、訪問診療（歯科も含め）を行っている方、是非お話したいですね。

＜岩崎 克夫（昭 48 卒）＞

●3 年前の伊豆大島土砂災害では、皆様に大変ご心配をおかけしました。おかげ様で、家族皆健康に過ごしております。元町港の前で家内の実家の「美芳」という民宿を経営しております。お遊びにいらして下さい。

＜清水 豊典（昭 49 卒）＞

●同窓会広報委員をまかされています。同窓会スタッフと「獨協ぶらり旅」と名前をつけて、卒業生の飲食店やお仕事の紹介をしています。これぞと思う方自薦他薦を問いません。shigeo@yatagai.net まで御一報下さい。スタッフでかけつけて独協通信とホームページで紹介させていただきます。

＜谷田貝 茂雄（昭 51 卒）＞

●印刷会社名を残し、1F、2F、3F、4F をテナントに貸し、ビル管理をしています。3F の事務所で経理をしています。

＜入野 満哉（昭 51 卒）＞

●もの忘れが多くなった今日この頃です。獨協生だった記憶はいつ迄残るのでしょうか！これからも思い出を大切に生きていきたいと思います。

＜吉崎 明彦（昭 51 卒）＞

●歯科医院を再開して、10 年になりました。歯学部再受験時に 1 番御世話になったのは獨協の人達でした。

＜上野 貢（昭 51 卒）＞

●松戸市にて開業しております。母校並びに母校剣道部の益々の発展を祈ります。

＜立原 弘幸（昭 52 卒）＞

●当初、目論んでいた“地の果て国立”入学には失敗したものの、盛岡にある私大に現役合格したので、せっせと教習所通いに勤しむ長男とどんな車を買ってやるか、やはりせっせとディーラー巡りに余念が無い自分があります。来年は次男が医学部受験（多分?）、当分仕事は辞められそうにありません。

＜曾谷村 泰弘（昭 52 卒）＞

●獨協高校を卒業して 40 年近く経過し、歯科医師になり 30 年以上経ちました。長男も獨協中高と二代続けてお世話になり、今春歯科医師となり現在研修医です。年に数回獨協時代の友人と会食したり、最近では歯科医師獨協会でより多くの先輩・後輩との出会いを楽し

しんでいます。 <西原 由恭 (昭 53 卒)>
●とある職域同窓会にて元クラスメートの講演を聴き、38 年振りに会った友とは高校時代と変わらず話せる。獨協高校を卒業して良かったと思う瞬間でした。

<橋口 英生 (昭 53 卒)>
●医療法人の理事長として、野村病院・野村病院ケアセンター・昭和の杜病院・ひまわりクリニックの 4 施設を経営し、多忙な毎日を送っております。このたび息子が縁あって 4 月から獨協中学校にお世話になっております。同窓会。PTA 活動などでますます獨協学園にドブプリとつかる事になりそうですので、よろしく願いいたします。 <野村 芳樹 (昭 54 卒)>

●平成 28 年 7 月 9 日に椿山荘で昭和 59 年卒のクラス会を卒後初めて行いました。来年からも継続していこうと考えています。是非、昭和 59 年卒の皆さん御参加の程お願い申し上げます。

<吉松 栄彦 (昭 59 卒)>
●営業の部長職を拝命し、早 8 ヶ月が過ぎました。かかるストレスは大きいですがプライベートとのバランスをとって職務を全うして行きたいと思っています。

<荒木 一郎 (昭 61 卒)>
●一期上のロンドンオリンピックドクター中嶋耕平先輩 (国立スポーツ科学センターメディカルクリニック 整形外科医) が獨協柔道部 OB 会副会長にご就任され、また一緒に活動できることがうれしくて仕方ありません。

<福澄 重泰 (昭 61 卒)>
●NHK 報道局経済部でデスクをしています。記者として入局し、2000 年から一貫して経済報道に携わってきました。

<豊永 博隆 (平元卒)>
●今年は不惑の四十になる節目の年。総合庁舎整備担当係主査になりました。長女は中 1、次女は小 5、長男は小 1。私も係長職 1 年目。

<藤島 一郎 (平 7 卒)>
●歯科医師になり丸 10 年が経ちました。日々の診療に追われながらも、吹奏楽部時代から続けている音楽も行っています。

<大串 圭太 (平 12 卒)>
●研修医を終え東京医科大学病院の消化器内科に入局

し、医師として 3 年目になりました。専門性を高めながら内科医として日々努力しています。

<村松 孝洋 (平 19 卒)>
●H 28 年 4 月より(有)もんじゃ近どうを引き継ぎました。城北信用金での経験を生かしお店の経営を頑張っていきたいと思っています。

<近藤 圭太 (平 20 卒)>
●無事、獨協医科大学 4 年に進級でき、現在野球部長としてとにかく勝つことを目標に頑張っています。全力投球です!!

<佐藤 政哉 (平 25 卒)>
●ようやく進路が決まりました。ロシア語に悪戦苦闘しながら過ごしています。 <田中 舜 (平 27 卒)>
●わりあい楽しくやっています。

<樋口 叡 (平 27 卒)>
●今年の二月から料理修業。男子厨房に入るべし、少しずつ種類を増やしていくつもりがパスタばかり作っています。

<高松 慶 (平 27 卒)>
●大学にも慣れてきて、アルバイトと勉強の大学生活を過ごしています。たくさんの新しいことを始める大学生活となっています。

<ウィルコックス アレクサンダー寛 (平 28 卒)>
●新しい環境に慣れるのは大変で「高校の頃は良かった、戻れるなら戻りたい」と思うことがありますがなんとか頑張っております。また、初めて働いてお金を稼ぐ大変さを痛感しております。

<住吉 健太 (平 28 卒)>
●東京理科大学に通っています。思った以上に忙しくてなかなか遊べず苦労しています。

<野田 修司 (平 28 卒)>
●バイト、サークル、勉強の全てを全力でやっております。

<荒川 義喬 (平 28 卒)>
●6 年もの間、毎日顔を合わせていた級友達と会えなくなって 2 ヶ月が過ぎました。思い出すのは昼休みにいつも益体のない話で盛り上がっていた親友の顔です。面倒をかけた先生方に今年こそ良い報告ができるとう幸いです。

<西尾 将迅 (平 28 卒)>

同窓生の新刊紹介

根本 達久氏 (昭和 20 年独 5 卒)
写真集『空から見た日本の名峰』(山と溪谷社)

昨年 4 月に逝去された故根本達久氏 (昭 20 年独 5 卒) のご遺族が編纂され、10 月に発刊された。氏は若いころ飛行操縦ライセンスを取得し、日本各地の名峰を空から撮り続けていた。その中から選りすぐられた写真の名作集。

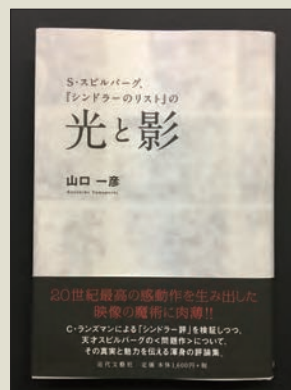
山口 一彦氏 (昭和 40 年卒)
『光と影』(近代文藝社)

天才スピルバーグの問題作について、その真実と魅力を伝える渾身の評論集。



定価 2,500 円

根本達久写真集
空から見た日本の名峰



定価 1,728 円

山口一彦
光と影

両著とも同窓会に寄贈いただきました。
ありがとうございます。

＜お知らせ＞ 個人・法人からの同窓会への協力のための「協賛有料スペース」の新設

同窓会では、財務体質改善強化の一助とするため、この「独協通信」紙面上に、個人・法人名で掲載できる「有料スペース」を来年度中に設けることを検討しています。新しい収入源として、良識のある広告掲載を目指します。そのための、掲載決定に至るまでの条件整備など必要事項について広く検討中です。掲載内容の審査基準・期間・スペースサイズ・料金・レイアウト・応募方法など決まり次第、先ずホームページ上でお知らせします。なお、別途ホームページ上での「バナー有料スペース」なども今後実施していく方向で考えています。

88号(平成29年5月発行)へのご投稿をお待ちしています

内 容

1. 「コラムドイツ」… ドイツ語圏での幅広い体験記(仕事・旅行・生活など 1200字程度・写真可)
2. 「クラス会だより」・「クラブOB会」・「職域・地域会」などの報告(300字程度・写真可)
3. 上記各会の次回開催告知(100字程度)
4. その他「獨協の思い出」(800字程度・写真可)「獨協ぶらり旅」(300字程度・写真可)

締 切 平成29年3月10日(木)

1. 郵送先 〒112-0014 東京都文京区関口3-8-1 獨協同窓会 広報88号 担当
2. 送信先 info@dokkyo-mejiro.com

お問い合わせ 同窓会事務局(毎週 水・木曜日 13:00～16:30)

TEL 03-3946-6352 担当:鈴木・筒井

ご投稿いただいた文章への加筆・修正・一部削除などをさせていただく場合もあります。

なお、ご投稿文や集合写真などは、獨協同窓会ホームページにも掲載させていただきますので、予めご了承下さい。また、締切日を過ぎたご投稿分は掲載できない場合もありますので、併せてご了承下さい。

物故者名簿(『独協通信』86号以降) ご冥福をお祈り申し上げます

卒業年	氏 名	物故年月日	昭和 19 年	吉田 嘉明	2015/12/23	昭和 30 年	山中 康通	2013/1/1
			昭和 20 年	木村 保	2016/05/07	昭和 31 年	森川 博	2014/11/13
昭和 15 年	伊藤 博幸	2015/10/15	昭和 20 年	松島 寛	2016/2/1	昭和 33 年	飯塚 稔之	2013/
昭和 18 年	北村 光夫	2015/7/13	昭和 21 年	岡本 弘	2016/4/22	昭和 34 年	加藤 有尚	2016/04/09
昭和 19 年	阿部 是	2014/12/31	昭和 22 年	大神田八郎	2015/08	昭和 41 年	茂木 信一	2016/04/14
昭和 19 年	田村 康三	2016/03/20	昭和 25 年	渡辺 進	2016/6/6	昭和 42 年	田代 信一	2014/11/13
昭和 19 年	村山 和良	2015/8/13	昭和 29 年	小森 光男	2015/10/2	昭和 58 年	阿川 透久	2015/10/9
昭和 19 年	佐久間定吉	2015/10	昭和 30 年	松本 孝雄	2013/11/27	平成 3 年	鈴木健太郎	2015/9/25

会員の皆様からの「訃報」のお知らせへの御礼と誤報のお詫びと訂正について

故人のご遺族やご友人の方々から、「訃報」のお知らせを同窓会にいただき、会員の名簿管理へのご協力、感謝申し上げます。もとより、慎重に丁寧に対応しておりますが、前号86号の「物故者名簿」におきまして、本来はご父堂さまの氏名を掲出するべきところ、お知らせ戴いたご子息、ご本人さまの氏名を載せてしまいました。寶積英彦さまには、改めて紙上でお詫び申し上げます。今後は、再発防止のため一層の確認作業に努めます。

編 集 後 記

今年も昨年に引き続き、地震・台風・豪雪・豪雨などの自然災害に見舞われ、列島至る所に甚大な被害がもたらされた。改めて被災された方々へお見舞い申し上げます。本紙編集に携わり3号目、相変わらず皆様にはご迷惑をかけ続けている。トップは、今年卒業の新入会員からのみずみずしい文章を頂いた。若き優秀な獨協人の今後の活躍にエール。特集は、獨協文化祭での「第1回私の趣味・逸品展」とした。本企画は同窓会に再び関心を持って頂くため

の、話題づくりとして初の試み。予想以上のご参加を頂きスタッフ一同励まされた次第です。「獨協ぶらり旅」も「クラス会便り」も毎回充実、「ヨーロッパパトラン巡り」と共に人気の連載。トピックスは、ドイツ連邦政府からの叙勲の「朗報!」であろう。正に、「ドイツ語の獨協」、快挙といえば「硬式野球部4回戦進出で神宮球場へ」と盛り沢山な87号。巷では来年の干支が溢れてきました。どうぞ、皆様良いお年をお酉下さい。(克記)